

②5

大阪府営 石川河川公園 自然ゾーン (羽曳野市 新大黒橋 ～ 富田林市 喜志大橋 の河川敷)

文・写真 寺川 裕子(NPO法人 里山倶楽部)

南河内地域を流れる石川の中流域に位置し、1990 年代の市民運動をきっかけに、低水護岸や公園整備を最小限に抑えた自然保全エリアとして位置づけられた。上下流の護岸整備がすすんで河川の増水や氾濫による浸水が減少し、川らしい自然環境が失われる中、大阪府主催のワークショップや府民協働の協議会、また指定管理者の協力で保全管理を継続実施している。エリア内には、カヤネズミ(準絶滅危惧種)の営巣地となっているオギ草原や、ミゾコウジュ・タコノアシ・カワヂシャ(いずれも準絶滅危惧種)の生育している湿地や水辺があり、ボランティアによって定期的な除草やかく乱、移植などの作業を行っている。また、河川敷の草原では、夏季にはオオヨシキリの営巣が見られ、冬季にはコミズクも飛来し、自動撮影カメラでキツネやタヌキが確認されるなど、南河内地域における重要な自然環境となっている。



カヤネズミ保護草地(オギ草原)



タコノアシやカワヂシャの生育する湿地

②6

葉室里山 (太子町)

文 中條 月代(太子町葉室里山クラブ)

「太子葉室里山」は聖徳太子の里、太子町にあります。里山の中には古墳もあり先人たちが自然とともに守ってきました。里山は季節に応じて色々な姿を見せてくれます。

春になると、木々の周りで小鳥がさえずり子育てに奮闘しています。太陽の光が地面に届くと雑木林や草地にはショウジョウバカマやササユリ、シライトソウなどの花畑となり、蝶や虫達が忙しそうに蜜を求めて飛びかっています。そして小さなため池や畑の周りではカエルが棲み分けをしながら卵を産み、大きなため池にはトンボが飛び交い、カワセミや水鳥の遊び場となっています。

例会になると元気な子ども達が虫取り網を持って集まってきます。お宝を見つけた子どもの瞳は光り輝いています。こんな里山の風景を作り出しているのは里山保全活動の人達です。毎週里山に来ては草を刈り、枯れ木を伐採し、畑を耕し、子ども達が安心して遊べるよう、山の手入れをしています。また、昔から里山で行われていたような椎茸の栽培、炭焼きなどでコナラを活用、朽ちた木々はカブトムシの幼虫のすみかとなっています。



鳥の巣箱かけ(撮影:松本明寛)



黄金のアカガエル(撮影:松本明寛)